

ガンガンONLINE

コミカライズネーム構成大賞

ハイファンタジージャンル課題用小説

『美人な悪魔のお姉さんたちが、僕を世界最強の陰陽師に育てようとする』

著：茨木野

僕の名前はトーマ・ネクロム。

名門魔法使いの一族の、長男だ。いや、長男だった……と言った方がいい。

『トーマ。おまえをネクロム家から追放する。即刻この家から出ていけ』
魔力測定を終えた夜、家に帰った僕に、父上が端的にそうやってきたのだ。

婚約相手であるゲイル家との婚約破棄の申し出もあったそうだ。

どうしてこうなったのか？

『トーマ様の魔力は、ぜ、ゼロです』

今朝行われた、魔力測定の儀式でのこと。僕は自分の魔力を調べることになった。

結果、魔力測定の水晶に表示されたのは、【∞】。そう、00だったのだ。

僕は魔力の無い人間のレッテルを貼られてしまった。

婚約者から、そして父からも見捨てられたのである。

仕方がない。魔力が無ければ魔法が使えないのだ。名門魔法使いの家に生まれた以上、こうなるのは当然の結果だ……。

「ハァ……参ったなあ……これからどうしよう」

と、その時だった。

「た、大変だあ！ 魔物の大群が、攻めてくるぞおお！」

遠くから、男の叫び声がした。

今の声は、多分王都を守る衛兵の声だろう。

なら、今の言葉に嘘偽りはない。本当に、魔物の大群が攻めてくるんだ……。

い。ドーマン様」

「え？ いや僕はドーマンじゃなくて……トーマだけど……」

い、いやそれどころじゃあない！

「今すぐ飛竜の群れを倒さないと！」

お姉さんはニコニコと笑いながら、指を鳴らす。

パチン！

その瞬間、一陣の風が吹いた。あまりに強い風で、思わず目を閉じてしまう。

「もう、終わってますわ」

え！？

驚いて目を開ける僕。そこには、血だまりがあるだけだ。

「すごい……飛竜の群れを一瞬で倒すなんて……。あなたは、一体？」

「私はこの悪魔の書ネクロノミコンに封印されていた、契約悪魔でございます」

そう言って、お姉さんは僕に分厚い本を渡してくる。

古めかしい、分厚いその本に、不思議と見覚えがあった。

「そして、あなたは我らの主、大魔王アシヤ・ドーマン様の生まれ変わり。どうか、今一度、我らを率いて、百鬼夜行の主となってください」

……正直、僕には何が何やらだ。

でも魔力無しの欠陥品だと判明し、閉ざされたと思われた、正義の魔法使いへの道が……。

今再び開かれたような、そんな気がしたのだった。